

V.

自立支援医療(精神通院医療)用診断書
精神障害者保健福祉手帳用診断書

記入例集

記載例は全て架空の症例です

長崎県自立支援医療費支給認定等判定委員会

自立支援医療(精神通院医療)用診断書

※ 判 定	承認・条件付承認・保留・不承認
	(理由)

診 断 書 (精神通院医療用)

氏 名	症 例 1	昭和 63年 10月 1日生 (29歳)	男・女
住 所	長崎県 A 市 B 町 C 番地		
① 病 名 (ICD コードは F00 ~F99、 G40 のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 <u>統合失調症</u> ICD コード (F20) (2)従たる精神障害 _____ ICD コード () (3)身体合併症 _____		
② 発病から現在まで の病歴 (推定発病 年月、発病状況、治療 の経過 等を記載)	20歳時、幻覚妄想状態で発症。県外のD病院初診。複数の病院での加療を経て、平成26年8月5日、当院初診。2回の入院を経て、平成29年12月7日より当院外来通院中。		
③ 現在の病状、状態像等 (次の内から、治療を中止した時に出現する可能性のある症状も含めて該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. 思考・運動抑制 2. 易刺激性・興奮 3. 憂うつ気分 4. その他 ()			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 ()			
(3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 (思考伝播)			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 ()			
(5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 ()			
(6) 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 ()			
(7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 ()			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 () 頻度 () 2. 意識障害 3. その他 ()			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 () ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害 エ. その他 ()			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 2. 認知症 3. その他の記憶障害 () 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 () 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 ()			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 ()			
(12) その他 ()			

④ ③の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

病状が悪化し、入院した時には3人称幻声、被害関係妄想、思考伝播が活発化し生活が破綻した。現在は妄想の表出はほとんど見られず、感情鈍麻と意欲低下が中心で、外出も少なく、家人以外との交流はほとんどない。

⑤ 現在の治療内容

1 投薬内容

パリペリドン時効性注射剤

2 精神療法等

支持的精神療法および認知行動療法

3 訪問看護指示の有無 (有・無)

⑥ 今後の治療方針

薬物療法、精神療法の継続。デイケア利用も検討中。

⑦ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

(障害者総合支援法に規定する居宅介護(ホームヘルプ)、自立訓練、共同生活援助(グループホーム)、その他の障害福祉サービス等、訪問指導等)

なし

⑧ 備考

平成 30 年 3 月 1 日

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

名 称 □□病院

電話番号 〇××-×××-××××

医師氏名(自著または記名捺印) 〇× △□

※ 判 定	承認・条件付承認・保留・不承認
	(理由)

診 断 書 (精神通院医療用)

氏 名	症例 2	昭和 60年 6月 16日生 (32歳)	男・女
住 所	長崎県 A 市 B 町 C 番地		
① 病 名 (ICD コードは F00 ~F99、 G40 のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 <u>統合失調症</u> ICD コード (F20) (2)従たる精神障害 _____ ICD コード () (3)身体合併症 _____		
② 発病から現在まで の病歴 (推定発病 年月、発病状況、治療 の経過 等を記載)	高校 3 年時、緊張病性昏迷で発症。平成 15 年 11 月、D 病院を初診し、同日入院。その後、寛解と再燃を繰り返し、平成 26 年 2 月 10 日より現在まで当院通院中。平成 28 年に幻覚妄想状態にて約半年間の入院歴がある。		
③ 現在の病状、状態像等 (次の内から、治療を中止した時に出現する可能性のある症状も含めて該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. 思考・運動抑制 2. 易刺激性・興奮 3. 憂うつ気分 4. その他 ()			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 ()			
(3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 (被影響体験、思考伝播、滅裂思考)			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 ()			
(5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 ()			
(6) 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 ()			
(7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 ()			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 () 頻度 () 2. 意識障害 3. その他 ()			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 () ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害 エ. その他 ()			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 2. 認知症 3. その他の記憶障害 () 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 () 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 ()			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 ()			
(12) その他 ()			

④ ③の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

現在は寛解状態であるが、精神病エピソード再燃時には、幻聴・被害関係妄想が活発で、させられ体験などの自我障害も著明となる。意欲・活動性に乏しいが、家族の協力で何とか通院を継続している。

⑤ 現在の治療内容

1 投薬内容

オランザピン ゾピクロン

2 精神療法等

支持的精神療法および認知行動療法

3 訪問看護指示の有無 (有・無)

⑥ 今後の治療方針

再発予防のため薬物療法、ストレス対処技能の向上を目的とした精神療法の継続。

⑦ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

(障害者総合支援法に規定する居宅介護(ホームヘルプ)、自立訓練、共同生活援助(グループホーム)、その他の障害福祉サービス等、訪問指導等)

なし

⑧ 備考

平成 30 年 3 月 1 日

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

名 称 □□病院

電話番号 〇××-×××-××××

医師氏名(自著または記名捺印) 〇× △□

※ 判 定	承認・条件付承認・保留・不承認
	(理由)

診 断 書 (精神通院医療用)

氏 名	症例 3	1961 年 2 月 19 日生 (57歳)	男・女
住 所	長崎県 A 市 B 町 C 番地		
① 病 名 (ICD コードは F00 ~F99、 G40 のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 <u>うつ病</u> ICD コード (F32) (2)従たる精神障害 _____ ICD コード (_____) (3)身体合併症 _____		
② 発病から現在まで の病歴 (推定発病 年月、発病状況、治療 の経過 等を記載)	52歳の時、職場異動をきっかけに抑うつ的となり、以後、近医内科、精神科クリニックでの治療歴がある。うつ病エピソードが再燃したため、2017年6月12日、当院初診し、以後外来通院継続中。		
③ 現在の病状、状態像等 (次の内から、治療を中止した時に出現する可能性のある症状も含めて該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. <u>思考・運動抑制</u> 2. <u>易刺激性・興奮</u> 3. <u>憂うつ気分</u> 4. <u>その他</u> (不眠、食欲不振)			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 (_____)			
(3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 (_____)			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 (_____)			
(5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 (_____)			
(6) 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 (_____)			
(7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 (_____)			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 (_____) 頻度 (_____) 2. 意識障害 3. その他 (_____)			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 (_____) ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害 エ. その他 (_____)			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 2. 認知症 3. その他の記憶障害 (_____) 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 (_____) 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 (_____)			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 (_____)			
(12) その他 (_____)			

④ ③の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

発病以来、複数回のうつ病エピソードを繰り返している。現在は、ほぼ寛解状態にあるが、当院初診時には、抑うつ気分、興味や喜びの喪失、活力減退、集中力低下、自責感、焦燥、不眠など、多彩な症状を伴う重症うつ病エピソードで3ヶ月の休職を要した。

⑤ 現在の治療内容

1 投薬内容

パロキセチン フルニトラゼパム

2 精神療法等

支持的精神療法および認知行動療法

3 訪問看護指示の有無 (有 ・ 無)

⑥ 今後の治療方針

再発予防のため薬物療法、認知療法的アプローチの継続。

⑦ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

(障害者総合支援法に規定する居宅介護(ホームヘルプ)、自立訓練、共同生活援助(グループホーム)、その他の障害福祉サービス等、訪問指導等)

なし

⑧ 備考

2018年 3月 1日

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

名 称 □□病院

電話番号 〇××-×××-××××

医師氏名(自著または記名捺印) 〇× △□

※ 判 定	承認・条件付承認・保留・不承認
	(理由)

診 断 書 (精神通院医療用)

氏 名	症例 4	昭和 48年 9月 20日生 (44歳)	男・女
住 所	長崎県 A 市 B 町 C 番地		
① 病 名 (ICD コードは F00 ~F99、 G40 のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 <u>反復性うつ病性障害</u> ICD コード (F33) (2)従たる精神障害 _____ ICD コード () (3)身体合併症 _____		
② 発病から現在まで の病歴 (推定発病 年月、発病状況、治療 の経過 等を記載)	8年程前より抑うつ的となり、近医内科を経て平成22年10月21日、当院初診。薬物療法を開始。以後、外来通院中。		
③ 現在の病状、状態像等 (次の内から、治療を中止した時に出現する可能性のある症状も含めて該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. <u>思考・運動抑制</u> 2. <u>易刺激性・興奮</u> 3. <u>憂うつ気分</u> 4. その他 ()			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 ()			
(3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 ()			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. <u>昏迷</u> 3. 拒絶 4. その他 ()			
(5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 ()			
(6) 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 ()			
(7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 ()			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 () 頻度 () 2. 意識障害 3. その他 ()			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 () ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害 エ. その他 ()			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 2. 認知症 3. その他の記憶障害 () 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 () 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 ()			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 ()			
(12) その他 ()			

④ ③の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

これまで3回のうつ病エピソードがある。2回目のエピソードの際は、昏迷状態となり、入院加療を要した。今後も再燃予防のため加療継続を要する。

⑤ 現在の治療内容

1 投薬内容

ミルタザピン エビリファイ

2 精神療法等

支持的精神療法および認知行動療法

3 訪問看護指示の有無 (有 ・ 無)

⑥ 今後の治療方針

再発予防のため薬物療法、ストレス対処技能の向上を目的とした精神療法の継続。

⑦ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

(障害者総合支援法に規定する居宅介護(ホームヘルプ)、自立訓練、共同生活援助(グループホーム)、その他の障害福祉サービス等、訪問指導等)

な し

⑧ 備 考

平成 30 年 3 月 1 日

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

名 称 □□病院

電話番号 0××-×××-××××

医師氏名(自著または記名捺印) 〇× △□

※ 判 定	承認 ・ 条件付承認 ・ 保留 ・ 不承認
	(理由)

診 断 書 (精神通院医療用)

氏 名	症 例 5	昭和 36年 2月 19日生 (57歳)	男 ・ <input checked="" type="radio"/> 女
住 所	長崎県 A 市 B 町 C 番地		
① 病 名 (ICD コードは F00 ~F99、 G40 のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 <u>双極性感情障害</u> ICD コード (F31) (2)従たる精神障害 _____ ICD コード () (3)身体合併症 _____		
② 発病から現在まで の病歴 (推定発病 年月、発病状況、治療 の経過 等を記載)	26歳頃、食欲不振や動悸が出現し、近医内科で検査や投薬を受けたが改善しなかった。抑うつ気分を主訴に昭和63年2月26日、当院初診。うつ病として薬物療法を継続していたが、経過中、数週間気分の高揚が見られ、多弁で誇大的となり、入院を要した。上記診断に変更し、現在まで通院中。		
③ 現在の病状、状態像等 (次の内から、治療を中止した時に出現する可能性のある症状も含めて該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. <input checked="" type="radio"/> 思考・運動抑制 2. <input checked="" type="radio"/> 易刺激性・興奮 3. <input checked="" type="radio"/> 憂うつ気分 4. その他 ()			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. <input checked="" type="radio"/> 多弁 3. <input checked="" type="radio"/> 感情高揚・易刺激性 4. その他 ()			
(3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 ()			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 ()			
(5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 ()			
(6) 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 ()			
(7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 ()			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 () 頻度 () 2. 意識障害 3. その他 ()			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 () ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害 エ. その他 ()			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 2. 認知症 3. その他の記憶障害 () 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 () 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 ()			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 ()			
(12) その他 ()			

④ ③の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

近年は抑うつ状態が遷延し、抑うつ気分、思考抑制、集中力低下から対人交流を避け、ひきこもりがちの生活を送っている。症状悪化時には、焦燥感、易刺激性も著明となり、数週間に渡り、ほとんど家事ができない状態が続いた。躁状態では突然「会社を興す」として不眠不休で働き、入院を要した。

⑤ 現在の治療内容

1 投薬内容

炭酸リチウム

2 精神療法等

支持的精神療法

3 訪問看護指示の有無 (有 ・ 無)

⑥ 今後の治療方針

薬物療法・精神療法の継続。

⑦ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

(障害者総合支援法に規定する居宅介護(ホームヘルプ)、自立訓練、共同生活援助(グループホーム)、その他の障害福祉サービス等、訪問指導等)

なし

⑧ 備考

平成 30 年 3 月 1 日

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

名 称 □□病院

電話番号 〇××-×××-××××

医師氏名(自著または記名捺印) 〇× △□

※ 判 定	承認・条件付承認・保留・不承認
	(理由)

診 断 書 (精神通院医療用)

氏 名	症例 6	1961 年 12 月 3 日生 (56歳)	男・ <input checked="" type="radio"/> 女
住 所	長崎県 A 市 B 町 C 番地		
① 病 名 (ICD コードは F00 ~F99、 G40 のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 <u>全般性不安障害</u> ICD コード (F41) (2)従たる精神障害 _____ ICD コード () (3)身体合併症 _____		
② 発病から現在まで の病歴 (推定発病 年月、発病状況、治療 の経過 等を記載)	50歳頃より、動悸、呼吸困難等を主訴に内科に通院していたが、症状が軽快しないため、2012年3月2日に当院紹介初診となった。以後、現在まで通院中。		
③ 現在の病状、状態像等 (次の内から、治療を中止した時に出現する可能性のある症状も含めて該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. 思考・運動抑制 2. 易刺激性・興奮 3. <input checked="" type="radio"/> 憂うつ気分 4. その他 ()			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 ()			
(3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 (被影響体験、思考伝播、滅裂思考)			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 ()			
(5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 ()			
(6) 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 ()			
(7) 不安及び不穏 1. <input checked="" type="radio"/> 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. <input checked="" type="radio"/> その他 (自律神経刺激症状、胸腹部苦悶感)			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 () 頻度 () 2. 意識障害 3. その他 ()			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 () ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害 エ. その他 ()			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 2. 認知症 3. その他の記憶障害 () 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 () 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 ()			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 ()			
(12) その他 ()			

④ ③の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

初診時以来、動悸や発汗、呼吸困難感、吐き気、緊張性頭痛、死への恐怖などの症状を伴う不安・緊張が持続している。外出や対人交流が障害され、家事がほとんどできないため、家族が代行している。

⑤ 現在の治療内容

1 投薬内容

エスシタロプロム アルプラゾラム

2 精神療法等

支持的精神療法および認知行動療法

3 訪問看護指示の有無 (有 ・ 無)

⑥ 今後の治療方針

薬物療法・精神療法の継続。

⑦ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

(障害者総合支援法に規定する居宅介護(ホームヘルプ)、自立訓練、共同生活援助(グループホーム)、その他の障害福祉サービス等、訪問指導等)

なし

⑧ 備考

2018年3月1日

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

名 称 □□病院

電話番号 〇××-×××-××××

医師氏名(自著または記名捺印) 〇× △□

※ 判 定	承認・条件付承認・保留・不承認
	(理由)

診 断 書 (精神通院医療用)

氏 名	症 例 7	昭和 44年 7月 25日生 (48歳)	男・女
住 所	長崎県 A 市 B 町 C 番地		
① 病 名 (ICD コードは F00 ~F99、 G40 のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 <u>アルコール依存症</u> ICD コード (F10) (2)従たる精神障害 _____ ICD コード () (3)身体合併症 _____		
② 発病から現在まで の病歴 (推定発病 年月、発病状況、治療 の経過 等を記載)	36歳頃より飲酒抑制不能となり、連続飲酒を続け、肝機能障害のため入院したことがある。その後、離婚・失職。平成21年5月、D病院初診、同日入院。その後、同院およびE病院に計8回入院。平成28年7月9日に当院に転医。以後通院継続中。		
③ 現在の病状、状態像等 (次の内から、治療を中止した時に出現する可能性のある症状も含めて該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. 思考・運動抑制 2. 易刺激性・興奮 3. 憂うつ気分 4. その他 ()			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 ()			
(3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 ()			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 ()			
(5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 ()			
(6) 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 ()			
(7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 ()			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 () 頻度 () 2. 意識障害 3. その他 ()			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. <u>アルコール</u> 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 () ア. 乱用 イ. <u>依存</u> ウ. 残遺性・遅発性精神障害 エ. その他 ()			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 2. 認知症 3. その他の記憶障害 () 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 () 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 ()			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 ()			
(12) その他 ()			

④ ③の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

アルコールへの精神依存、身体依存が形成されており、連続飲酒状態に陥る。ストレスを契機にした再飲酒が見られ、長期の断酒継続は困難だが、依存からの脱却のための通院を自ら希望し、通院はほぼ欠かさない。

⑤ 現在の治療内容

1 投薬内容

ジスルフィラム

2 精神療法等

集団療法（院内ミーティング）

3 訪問看護指示の有無（有・無）

⑥ 今後の治療方針

再発予防のため薬物療法、ストレス対処技能の向上を目的とした精神療法の継続。

⑦ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

（障害者総合支援法に規定する居宅介護（ホームヘルプ）、自立訓練、共同生活援助（グループホーム）、その他の障害福祉サービス等、訪問指導等）

断酒会

⑧ 備考

平成 30 年 3 月 1 日

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

名 称 □□病院

電話番号 〇××-×××-××××

医師氏名（自著または記名捺印） 〇× △□

※ 判定	承認・条件付承認・保留・不承認
	(理由)

診 断 書 (精神通院医療用)

氏 名	症 例 8	昭和 44年 7月 25日生 (48歳)	男・ <input checked="" type="radio"/> 女
住 所	長崎県 A 市 B 町 C 番地		
① 病 名 (ICD コードは F00 ~F99、 G40 のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 <u>摂食障害</u> ICD コード (F50) (2)従たる精神障害 _____ ICD コード () (3)身体合併症 _____		
② 発病から現在までの病歴 (推定発病年月、発病状況、治療の経過等を記載)	高校2年の時、ダイエットを始め、拒食による体重減少のため A 内科に入院。その後、過食嘔吐も出現した。平成27年1月17日に当院紹介となり、以後平成28年9月より同年12月までの入院をはさみ、現在まで通院中。		
③ 現在の病状、状態像等 (次の内から、治療を中止した時に出現する可能性のある症状も含めて該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. 思考・運動抑制 2. 易刺激性・興奮 3. 憂うつ気分 4. その他 ()			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 ()			
(3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 ()			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 ()			
(5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 ()			
<input checked="" type="radio"/> (6) 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. <input checked="" type="radio"/> 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 ()			
<input checked="" type="radio"/> (7) 不安及び不穏 1. <input checked="" type="radio"/> 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 ()			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 () 頻度 () 2. 意識障害 3. その他 ()			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 () ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害 エ. その他 ()			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 2. 認知症 3. その他の記憶障害 () 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 () 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 ()			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 ()			
(12) その他 ()			

④ ③の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

初診以来、ボディイメージの障害から体重増加に対する強い恐怖心が持続し、適切な食生活は送れず、カロリーに固執した偏食が続いている。週に1～2回の頻度で過食が見られ、自己誘発嘔吐や過度の運動などの代償行為が繰り返されている。このため、対人交流も制限され、継続的就労もできない。

⑤ 現在の治療内容

1 投薬内容

フルボキサミン

2 精神療法等

認知行動療法

3 訪問看護指示の有無 (有 ・ 無)

⑥ 今後の治療方針

認知の修正と行動の変容を目的とした精神療法の継続。
自助グループへの参加のすすめ。

⑦ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

(障害者総合支援法に規定する居宅介護(ホームヘルプ)、自立訓練、共同生活援助(グループホーム)、その他の障害福祉サービス等、訪問指導等)

自助グループ

⑧ 備 考

平成 30 年 3 月 1 日

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

名 称 □□病院

電話番号 0××-×××-××××

医師氏名(自著または記名捺印) 〇× △□

※ 判 定	承認・条件付承認・保留・不承認
	(理由)

診 断 書 (精神通院医療用)

氏 名	症 例 9	2002 年 4 月 12 日生 (15歳)	男・女
住 所	長崎県 A 市 B 町 C 番地		
① 病 名 (ICD コードは F00 ~F99、 G40 のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 <u>自閉症</u> ICD コード (F84) (2)従たる精神障害 _____ ICD コード () (3)身体合併症 _____		
② 発病から現在まで の病歴 (推定発病 年月、発病状況、治療 の経過 等を記載)	乳児のころから視線が合わず、始語の遅れ、数字や記号へのこだわりが見られたが、知的発達の遅れはなく、普通学級に就学。友人が全くできず、小学5年生頃より不登校傾向となったため、2013年6月24日に当院初診。以後現在まで通院継続中。		
③ 現在の病状、状態像等 (次の内から、治療を中止した時に出現する可能性のある症状も含めて該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. 思考・運動抑制 2. 易刺激性・興奮 3. 憂うつ気分 4. その他 ()			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 ()			
(3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 ()			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 ()			
(5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 ()			
⑥ 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 ()			
(7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 ()			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 () 頻度 () 2. 意識障害 3. その他 ()			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 () ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害 エ. その他 ()			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 2. 認知症 3. その他の記憶障害 () 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 () 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 ()			
⑪ 広汎性発達障害関連症状 ① 相互的な社会関係の質的障害 ② コミュニケーションのパターンにおける質的障害 ③ 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 ()			
(12) その他 ()			

④ ③の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

診察時、視線は合わず、抑揚の少ない独特の甲高い声で話す。額を親指でつつく常同行為が目立つ。特定のSF映画への関心が強く、毎日長時間DVDを見ており、親から注意を受けると激怒する。

中学校では孤立しており、しばしば二次的に憂うつ気分が出現する。過度に自己主張をし、同級生と口論になることがあり、その際は物を投げつけたり、急に不安となり教室を飛び出し勝手に帰宅したりする。対人交流は著しく制限され、十分に登校出来ていない。

WISC-IV : VCI=98 PRI=99 WMI=79 PSI=82 (2013年8月14日実施)

⑤ 現在の治療内容

1 投薬内容

アリピプラゾール

2 精神療法等

S S T
認知行動療法

3 訪問看護指示の有無 (有 ・ 無)

⑥ 今後の治療方針

認知の修正と行動の変容、問題対処技能の習得を目的とした認知行動療法の継続。

⑦ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

(障害者総合支援法に規定する居宅介護(ホームヘルプ)、自立訓練、共同生活援助(グループホーム)、その他の障害福祉サービス等、訪問指導等)

な し

⑧ 備 考

2018年3月1日

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

名 称 □□病院

電話番号 〇××-×××-××××

医師氏名(自著または記名捺印) 〇× △□

※ 判 定	承認・条件付承認・保留・不承認
	(理由)

診 断 書 (精神通院医療用)

氏 名	症例 10	平成 18年 8月 4日生 (11歳)	男・女
住 所	長崎県 A 市 B 町 C 番地		
① 病 名 (ICD コードは F00 ~F99、G40 のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 <u>多動性障害</u> ICD コード (F90) (2)従たる精神障害 _____ ICD コード () (3)身体合併症 _____		
② 発病から現在までの病歴 (推定発病年月、発病状況、治療の経過等を記載)	幼稚園の頃から、多動傾向や順番が守れないなどの問題行動を指摘されていた。小学校入学後は授業中の離席や同級生とのトラブルが目立ち、2年時に担任のすすめで校医に相談。平成27年5月29日、当院紹介初診となり、以後現在まで通院中。		
③ 現在の病状、状態像等 (次の内から、治療を中止した時に出現する可能性のある症状も含めて該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. 思考・運動抑制 2. 易刺激性・興奮 3. 憂うつ気分 4. その他 ()			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 ()			
(3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 ()			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 ()			
(5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 ()			
(6) 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 ()			
(7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 ()			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 () 頻度 () 2. 意識障害 3. その他 ()			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 () ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害 エ. その他 ()			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 2. 認知症 3. その他の記憶障害 () 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 () 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 ()			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 ()			
(12) その他 ()			

④ ③の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

勉強や作業に集中できず、外部の刺激に対してすぐに注意がそれてしまう。教室で長時間着座できず、騒いだり他児の邪魔をしたりする。順番を待てず、教師や他児の会話に割り込んだり、注意されると反抗的態度を取ったりし、時に暴力行為に至る。

以上のように注意・集中の困難、多動、衝動性を認め、学業の習熟の遅れ、学校や家庭での著しい不適応が生じている。

WISC-IV : VCI=82 PRI=87 WMI=77 PSI=85 (平成27年8月30日実施)

⑤ 現在の治療内容

1 投薬内容

アトモキセチン

2 精神療法等

認知行動療法
ペアレント・トレーニング

3 訪問看護指示の有無 (有 ・ 無)

⑥ 今後の治療方針

薬物療法および認知の修正と行動の変容を目的とした精神療法の継続。
親に対するペアレント・トレーニング継続。

⑦ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

(障害者総合支援法に規定する居宅介護(ホームヘルプ)、自立訓練、共同生活援助(グループホーム)、その他の障害福祉サービス等、訪問指導等)

なし

⑧ 備考

平成 30 年 3 月 1 日

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

名 称 □□病院

電話番号 〇××-×××-××××

医師氏名(自著または記名捺印) 〇× △□

※ 判 定	承認・条件付承認・保留・不承認
	(理由)

診 断 書 (精神通院医療用)

氏 名	症 例 1 1	昭和 51年 11月 17日生 (41歳)	男・女
住 所	長崎県 A 市 B 町 C 番地		
① 病 名 (ICD コードは F00 ~F99、 G40 のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 <u>高次脳機能障害(器質性・片所障害)</u> ICD コード (F07) (2)従たる精神障害 _____ ICD コード () (3)身体合併症 _____		
② 発病から現在まで の病歴 (推定発病 年月、発病状況、治療 の経過 等を記載)	平成28年3月、自動車事故による頭部外傷のためD病院に緊急入院。1か月後に意識障害が回復し、上記診断を受けた。同年5月、E病院に転院し、リハビリを受けた。同年8月に自宅退院後、易怒性が顕著となり、家人に対する暴言・暴力を認めるようになった。平成29年6月11日、近医より紹介され、当院受診。以後現在まで通院中。		
③ 現在の病状、状態像等 (次の内から、治療を中止した時に出現する可能性のある症状も含めて該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. 思考・運動抑制 2. 易刺激性・興奮 3. 憂うつ気分 4. その他 ()			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 ()			
(3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 ()			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 ()			
(5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 ()			
(6) 情動及び行動の障害 1. <u>爆発性</u> 2. <u>暴力・衝動行為</u> 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 ()			
(7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 ()			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 () 頻度 () 2. 意識障害 3. その他 ()			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 () ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害 エ. その他 ()			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 2. 認知症 3. その他の記憶障害 () 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 () 5. <u>遂行機能障害</u> 6. <u>注意障害</u> 7. その他 ()			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 ()			
(12) その他 ()			

④ ③の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

物事に集中できず、注意散漫であるため、生活上、何をやるにしても長続きしない。見通しを立てた行動や金銭管理が難しく、ローン会社や親族から借金を繰り返していた。また、気分は易变的で、衝動制御も困難となっており、思い通りにいかないと暴れることもある。

平成29年9月の頭部MRIで、右前頭葉内側部に損傷を認めた。

⑤ 現在の治療内容

1 投薬内容

リスペリドン バルプロ酸ナトリウム

2 精神療法等

支持的精神療法 SST

3 訪問看護指示の有無 (有・無)

⑥ 今後の治療方針

薬物療法と精神療法の継続

⑦ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

(障害者総合支援法に規定する居宅介護(ホームヘルプ)、自立訓練、共同生活援助(グループホーム)、その他の障害福祉サービス等、訪問指導等)

自立支援(生活訓練)サービス事業所通所

⑧ 備考

平成 30 年 3 月 1 日

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

名 称 □□病院

電話番号 0××-×××-××××

医師氏名(自著または記名捺印) 〇× △□

※ 判 定	承認・条件付承認・保留・不承認
	(理由)

診 断 書 (精神通院医療用)

氏 名	症例 12	1995 年 7 月 30 日生 (22歳)	男・女
住 所	長崎県 A 市 B 町 C 番地		
① 病 名 (ICD コードは F00 ~F99、 G40 のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 <u>てんかん</u> ICD コード (G40) (2)従たる精神障害 _____ ICD コード () (3)身体合併症 _____		
② 発病から現在まで の病歴 (推定発病 年月、発病状況、治療 の経過 等を記載)	10歳時、全身けいれん発作を初発。経過観察されていたが、2008年1月、 2回目の発作が見られたため、同月16日にD小児科にて精査のうえ、薬物療 法を開始。その後転居に伴う転医を経て、2012年4月20日より当院通院中。		
③ 現在の病状、状態像等 (次の内から、治療を中止した時に出現する可能性のある症状も含めて 該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. 思考・運動抑制 2. 易刺激性・興奮 3. 憂うつ気分 4. その他 ()			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 ()			
(3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 ()			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 ()			
(5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 ()			
(6) 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 ()			
(7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 ()			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. <u>てんかん発作</u> 発作型 (<u>強直間代発作</u>) 頻度 (2013年2月3日以降発作抑制中) 2. <u>意識障害</u> 3. その他 ()			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 () ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害 エ. その他 ()			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 2. 認知症 3. その他の記憶障害 () 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 () 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 ()			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 ()			
(12) その他 ()			

④ ③の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

前兆を伴う強直間代発作を年2回程度繰り返していたが、薬物療法により、2013年2月3日以降発作は抑制されている。

脳波検査（2017年12月実施）で、右前側頭部に棘波様発射を認める。

⑤ 現在の治療内容

1 投薬内容

ラモトリギン

2 精神療法等

服薬指導

3 訪問看護指示の有無 （ 有 ・ 無 ）

⑥ 今後の治療方針

薬物療法の継続。

⑦ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

（障害者総合支援法に規定する居宅介護（ホームヘルプ）、自立訓練、共同生活援助（グループホーム）、その他の障害福祉サービス等、訪問指導等）

な し

⑧ 備 考

2018年 3月 1日

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

名 称 □□病院

電話番号 〇××-×××-××××

医師氏名（自著または記名捺印） 〇× △□

※ 判 定	承認・条件付承認・保留・不承認
	(理由)

診 断 書 (精神通院医療用)

氏 名	症 例 13	昭和 13年 9月 29日生 (79歳)	男・ <input checked="" type="radio"/> 女
住 所	長崎県 A 市 B 町 C 番地		
① 病 名 (ICD コードは F00 ~F99、 G40 のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 <u>アルツハイマー型認知症</u> ICD コード (F00) (2)従たる精神障害 _____ ICD コード () (3)身体合併症 _____		
② 発病から現在までの病歴 (推定発病年月、発病状況、治療の経過等を記載)	65歳頃までパートで販売の仕事をしていたが、徐々にもの忘れが進行した。平成20年10月頃より被害妄想や興奮が出現したため、平成21年4月12日に当院を初診。通院加療を継続していたが、近隣トラブルが続いたため、平成22年1月24日当院入院。同年10月8日退院後は外来通院継続中。		
③ 現在の病状、状態像等 (次の内から、治療を中止した時に出現する可能性のある症状も含めて該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. 思考・運動抑制 2. 易刺激性・興奮 3. 憂うつ気分 4. その他 ()			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 ()			
<input checked="" type="radio"/> (3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. <input checked="" type="radio"/> 妄想 3. その他 ()			
<input checked="" type="radio"/> (4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. <input checked="" type="radio"/> 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 ()			
(5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 ()			
<input checked="" type="radio"/> (6) 情動及び行動の障害 1. <input checked="" type="radio"/> 爆発性 2. <input checked="" type="radio"/> 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 ()			
(7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 ()			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 () 頻度 () 2. 意識障害 3. その他 ()			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 () ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害 エ. その他 ()			
<input checked="" type="radio"/> (10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 2. <input checked="" type="radio"/> 認知症 3. その他の記憶障害 () 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 () 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 ()			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 ()			
(12) その他 ()			

④ ③の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

食事をしたことを忘れ、繰り返し要求し興奮する。金銭管理や社会的手続きなどは家族の援助が必要である。近隣住民に対し被害的となり、何度も家を訪れて文句を言ったり、110番通報したりしたため入院となったが、薬剤調整後は著しい問題行動は見られなくなり、デイサービスやショートステイを利用しながら、自宅での生活を継続できている。

MMSE（平成29年5月2日実施）：10/30点

脳血流シンチ（平成22年1月31日）：後部帯状回の血流低下

⑤ 現在の治療内容

1 投薬内容

ドネペジル メマンチン クエチアピン

2 精神療法等

支持的精神療法

3 訪問看護指示の有無（有・無）

⑥ 今後の治療方針

薬物療法と精神療法の継続。

⑦ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

（障害者総合支援法に規定する居宅介護（ホームヘルプ）、自立訓練、共同生活援助（グループホーム）、その他の障害福祉サービス等、訪問指導等）

デイサービス ショートステイ

⑧ 備考

平成 30 年 3 月 1 日

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

名 称 □□病院

電話番号 〇××-×××-××××

医師氏名（自著または記名捺印） 〇× △□



※ 判定	承認 ・ 条件付承認 ・ <u>保留</u> ・ 不承認
	(理由) 現在通院中であるとは判断できないため

診 断 書 (精神通院医療用)

氏 名	症例 14	平成 50年 1月 14日生 (43歳)	<u>男</u> ・ 女
住 居	記載不十分 長崎県 A 市 B 町 C 番地		
① 病 名 (ICD コードは F00 ~F99、G40 のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 <u>統合失調症</u> ICD コード (F20) (2)従たる精神障害 _____ ICD コード (_____) (3)身体合併症 _____		
② 発病から現在までの病歴 (推定発病年月、発病状況、治療の経過等を記載)	22歳の時、幻覚妄想状態となり、他県の精神科病院に初回入院。その後、帰郷し、入退院を繰り返している。そのうち、2回は被害関係妄想から暴力行為に及び、措置入院であった。現在も幻覚妄想が持続しており、自閉傾向が強い。		
③ 現在の病状、状態像等 (次の内から、治療を中止した時に出現する可能性のある症状も含めて該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. 思考・運動抑制 2. 易刺激性・興奮 3. 憂うつ気分 4. その他 (_____)			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 (_____)			
<u>(3) 幻覚妄想状態</u> 1. <u>幻覚</u> 2. <u>妄想</u> 3. その他 (_____)			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 (_____)			
<u>(5) 統合失調症等残遺状態</u> 1. <u>自閉</u> 2. <u>感情平板化</u> 3. 意欲の減退 4. その他 (_____)			
(6) 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 (_____)			
(7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 (_____)			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 (_____) 頻度 (_____) 2. 意識障害 3. その他 (_____)			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 (_____) ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害 エ. その他 (_____)			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 2. 認知症 3. その他の記憶障害 (_____) 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 (_____) 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 (_____)			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 (_____)			
(12) その他 (_____)			

④ ③の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

家人や近隣住民に対する被害関係妄想が持続しており、時に攻撃的となる。ほとんど外出することなく、無為自閉。不眠の訴えは聞かれるが、病識は乏しい。薬物療法の継続が必要。

⑤ 現在の治療内容

1 投薬内容

アリピプラゾール スポレキサント

2 精神療法等

支持的精神療法

3 訪問看護指示の有無 (有・無)

⑥ 今後の治療方針

薬物療法と精神療法の継続。

⑦ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

(障害者総合支援法に規定する居宅介護(ホームヘルプ)、自立訓練、共同生活援助(グループホーム)、その他の障害福祉サービス等、訪問指導等)

なし

⑧ 備考

平成 30 年 3 月 1 日

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

名 称 □□病院

電話番号 〇××-×××-××××

医師氏名(自著または記名捺印) 〇× △□



※ 判 定	承認 ・ 条件付承認 ・ 保留 ・ 不承認
	(理由) 精神病あるいはそれと同等の病態にあるか、治療の中断により同等の状態が再燃する可能性がある と読み取れないため

診 断 書 (精神通院医療用)

氏 名	症例 15	1963 年 12 月 27 日生 (54歳)	男 ・ 女
住 所	不承認例 長崎県 A 市 B 町 C 番地		
① 病 名 (ICD コードは F00 ~F99、 G40 のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 <u>うつ病</u> ICD コード (F32) (2)従たる精神障害 _____ ICD コード (_____) (3)身体合併症 _____		
② 発病から現在まで の病歴 (推定発病 年月、発病状況、治療 の経過 等を記載)	40歳代後半より、食欲不振や動悸が出現し、近医内科にて何度か投薬を受けた。抑うつ気分を主訴に2014年11月15日、当院初診。以後現在まで通院中。		
③ 現在の病状、状態像等 (次の内から、治療を中止した時に出現する可能性のある症状も含めて該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. 思考・運動抑制 2. 易刺激性・興奮 3. 憂うつ気分 4. その他 (_____)			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 (_____)			
(3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 (_____)			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 (_____)			
(5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 (_____)			
(6) 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 (_____)			
(7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 (_____)			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 (_____) 頻度 (_____) 2. 意識障害 3. その他 (_____)			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 (_____) ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害 エ. その他 (_____)			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 2. 認知症 3. その他の記憶障害 (_____) 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 (_____) 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 (_____)			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 (_____)			
(12) その他 (_____)			

④ ③の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

初診時は、抑うつ気分、思考抑制が見られ、仕事にも支障が出たが、薬物療法により改善し、通常業務が遂行できるようになった。現在は時折、不眠や不安が出現するため薬物療法継続中である。引き続き継続的治療を希望している。

⑤ 現在の治療内容

1 投薬内容

ロラゼパム ゾルピデム

2 精神療法等

支持的精神療法

3 訪問看護指示の有無 (有 ・ 無)

⑥ 今後の治療方針

薬物療法と精神療法の継続

⑦ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

(障害者総合支援法に規定する居宅介護(ホームヘルプ)、自立訓練、共同生活援助(グループホーム)、その他の障害福祉サービス等、訪問指導等)

なし

⑧ 備考

2018年 3月 1日

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

名 称 □□病院

電話番号 〇××-×××-××××

医師氏名(自著または記名捺印) 〇× △□



※ 判 定	承認 ・ 条件付承認 ・ 保留 ・ <u>不承認</u>
	(理由) 精神病あるいはそれと同等の病態にあるか、治療の中断により同等の状態が再燃する可能性がある と読み取れないため

診 断 書 (精神通院医療用)

氏 名	症例 16	昭和 38年 3月 21日生 (54歳)	男 ・ <u>女</u>
住 所	<u>不承認例</u> 長崎県 A 市 B 町 C 番地		
① 病 名 (ICD コードは F00 ~F99、 G40 のいずれかを記載)	(1) 主たる精神障害 <u>全般性不安障害</u> ICD コード (F41) (2) 従たる精神障害 _____ ICD コード () (3) 身体合併症 _____		
② 発病から現在まで の病歴 (推定発病 年月、発病状況、治療 の経過 等を記載)	50歳頃より、動悸や呼吸困難を主訴に内科にて治療を受けていたが、症状が軽快しないため、平成27年5月19日に当院を紹介され初診。以後現在まで通院中。		
③ 現在の病状、状態像等 (次の内から、治療を中止した時に出現する可能性のある症状も含めて該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. 思考・運動抑制 2. 易刺激性・興奮 3. 憂うつ気分 4. その他 ()			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 ()			
(3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 ()			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 ()			
(5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 ()			
(6) 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 ()			
<u>(7) 不安及び不穏</u> 1. <u>強度の不安・恐怖感</u> 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. <u>その他</u> (<u>自律神経刺激症状</u>)			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 () 頻度 () 2. 意識障害 3. その他 ()			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 () ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害 エ. その他 ()			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 2. 認知症 3. その他の記憶障害 () 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 () 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 ()			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 ()			
(12) その他 ()			

④ ③の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

数年来、動悸、発汗、呼吸困難、吐き気などの症状を伴う不安が強く、趣味の活動に参加できない状態であった。現在は改善し、通常通りできる状況になっている。

しかし、ストレスがあると、一過性に不眠・不安が再燃するため、当分の間、薬物療法の継続が必要であると思われる。

⑤ 現在の治療内容

1 投薬内容

アルプラゾラム、プロチゾラム

2 精神療法等

支持的精神療法

3 訪問看護指示の有無 (有 ・ 無)

⑥ 今後の治療方針

薬物療法と精神療法の継続

⑦ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

(障害者総合支援法に規定する居宅介護(ホームヘルプ)、自立訓練、共同生活援助(グループホーム)、その他の障害福祉サービス等、訪問指導等)

なし

⑧ 備考

平成 30 年 3 月 1 日

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

名 称 □□病院

電話番号 〇××-×××-××××

医師氏名(自著または記名捺印) 〇× △□



※ 判定	承認 ・ 条件付承認 ・ 保留 ・ 不承認
	(理由) 情動及び行動の障害を認めないため

診 断 書 (精神通院医療用)

氏 名	症例 17	昭和 8年 7月 6日生 (84歳)	男 ・ 女
住 所	不承認例 長崎県 A市 B町 C番地		
① 病 名 (ICD コードは F00 ~F99、G40 のいずれかを記載)	(1) 主たる精神障害 <u>アルツハイマー型認知症</u> ICD コード (F00) (2) 従たる精神障害 _____ ICD コード (_____) (3) 身体合併症 _____		
② 発病から現在までの病歴 (推定発病年月、発病状況、治療の経過 等を記載)	75歳頃より、記憶力低下が出現。平成22年3月30日、当院初診し、諸検査を経てアルツハイマー型認知症と診断。以後、現在まで通院中。		
③ 現在の病状、状態像等 (次の内から、治療を中止した時に出現する可能性のある症状も含めて該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. 思考・運動抑制 2. 易刺激性・興奮 3. 憂うつ気分 4. その他 (_____)			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 (_____)			
(3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 (_____)			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 (_____)			
(5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 (_____)			
(6) 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 (_____)			
(7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 (_____)			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 (_____) 頻度 (_____) 2. 意識障害 3. その他 (_____)			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 (_____) ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害 エ. その他 (_____)			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 2. 認知症 3. その他の記憶障害 (_____) 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 (_____) 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 (_____)			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 (_____)			
(12) その他 (_____)			

④ ③の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

記銘力低下、見当識障害が著しく、最近は発語もほとんどない状況。自発的活動は極めて少なく、食事、排泄、入浴など日常生活全般に関して家人の介助を要する状態である。

頭部MRI（平成22年4月16日施行）：両側海馬の萎縮
MMSE（平成29年10月26日施行）：6/30点

⑤ 現在の治療内容

1 投薬内容

ドネペジル

2 精神療法等

家族に対する助言が中心

3 訪問看護指示の有無 （有・無）

⑥ 今後の治療方針

薬物療法の継続。

⑦ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

（障害者総合支援法に規定する居宅介護（ホームヘルプ）、自立訓練、共同生活援助（グループホーム）、その他の障害福祉サービス等、訪問指導等）

ホームヘルプ ショートステイ

⑧ 備考

平成 30 年 3 月 1 日

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

名 称 □□病院

電話番号 〇××-×××-××××

医師氏名（自著または記名捺印） 〇× △□



※ 判定	承認 ・ 条件付承認 ・ 保留 ・ 不承認
	(理由) 精神病症状を認めず、自ら通院医療を希望していないため

診 断 書 (精神通院医療用)

氏 名	症例 18	1966 年 11 月 18 日生 (51歳)	男 ・ 女
住 所	不承認例 長崎県 A 市 B 町 C 番地		
① 病 名 (ICD コードは F00 ~F99、G40 のいずれかを記載)	(1) 主たる精神障害 <u>アルコール依存症</u> ICD コード (F10) (2) 従たる精神障害 _____ ICD コード (_____) (3) 身体合併症 _____		
② 発病から現在までの病歴 (推定発病年月、発病状況、治療の経過 等を記載)	40歳頃より連続飲酒や暴力などの問題行動が著明となり、2008年2月2日に当院初診。その後、当院に計6回の入院を繰り返す。2013年1月22日の退院後は、家族の同伴で当院外来通院中。抗酒剤を処方している。		
③ 現在の病状、状態像等 (次の内から、治療を中止した時に出現する可能性のある症状も含めて該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. 思考・運動抑制 2. 易刺激性・興奮 3. 憂うつ気分 4. その他 (_____)			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 (_____)			
(3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 (_____)			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 (_____)			
(5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 (_____)			
(6) 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 (_____)			
(7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 (_____)			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 (_____) 頻度 (_____) 2. 意識障害 3. その他 (_____)			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 (_____) ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害 エ. その他 (_____)			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 2. 認知症 3. その他の記憶障害 (_____) 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 (_____) 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 (_____)			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 (_____)			
(12) その他 (_____)			

④ ③の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

再飲酒を繰り返し、家人への暴力行為や近隣への迷惑行為が著しく、何度も警察に保護されている。現在は家族の説得で抗酒剤を服用することもあるが、否認が強く、自発的通院や断酒継続は困難。この10年間、全く就労しておらず、継続的な治療が必要である。

⑤ 現在の治療内容

1 投薬内容

ジスルフィラム

2 精神療法等

本人が治療意欲に乏しいため、訪問看護による支援や、家族に対する精神療法を継続する。

3 訪問看護指示の有無 (有) ・ 無)

⑥ 今後の治療方針

本人の治療意欲を高めるよう支援していく。断酒会への参加を目指す。

⑦ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

(障害者総合支援法に規定する居宅介護(ホームヘルプ)、自立訓練、共同生活援助(グループホーム)、その他の障害福祉サービス等、訪問指導等)

なし

⑧ 備考

2018年 3月 1日

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

名 称 □□病院

電話番号 〇××-×××-××××

医師氏名(自著または記名捺印) 〇× △□



※ 判定	承認 ・ 条件付承認 ・ 保留 ・ 不承認
	(理由) 情動・行動の障害を認めず、精神症状に対する治療が行われていると読み取れないため。

診 断 書 (精神通院医療用)

氏 名	症例 19	昭和 33年 3月 14日生 (59歳)	男 ・ 女
住 所	不承認例 長崎県 A 市 B 町 C 番地		
① 病 名 (ICD コードは F00 ~F99、G40 のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 高次脳機能障害 ICD コード (F06) (2)従たる精神障害 _____ ICD コード (_____) (3)身体合併症 <u>脳出血後遺症、右片麻痺</u>		
② 発病から現在までの病歴 (推定発病年月、発病状況、治療の経過 等を記載)	平成27年8月7日、脳出血のためD病院に救急搬送され、緊急開頭手術を施行。E病院へのリハビリ転院を経て、同年12月26日に退院後、平成28年1月10日、当院初診。以後、当院外来にて右片麻痺に対するリハビリを継続中。記憶力・注意の障害が残存している。		
③ 現在の病状、状態像等 (次の内から、治療を中止した時に出現する可能性のある症状も含めて該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. 思考・運動抑制 2. 易刺激性・興奮 3. 憂うつ気分 4. その他 (_____)			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 (_____)			
(3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 (_____)			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 (_____)			
(5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 (_____)			
(6) 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 (_____)			
(7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 (_____)			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 (_____) 頻度 (_____) 2. 意識障害 3. その他 (_____)			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 (_____) ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害 エ. その他 (_____)			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 2. 認知症 3. その他の記憶障害 (記憶力障害) 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 (_____) 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 (_____)			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 (_____)			
(12) その他 (_____)			

④ ③の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

短期記憶障害、注意障害が見られる。仕事復帰は難しく、休職を経て退職した。
再発予防のため通院・服薬の継続を要する。

⑤ 現在の治療内容

1 投薬内容

塩酸ニカルジピン

2 精神療法等

3 訪問看護指示の有無 (有) ・ 無)

⑥ 今後の治療方針

薬物療法、片麻痺に対する通院リハビリテーション、訪問看護の継続。

⑦ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

(障害者総合支援法に規定する居宅介護(ホームヘルプ)、自立訓練、共同生活援助(グループホーム)、その他の障害福祉サービス等、訪問指導等)

ホームヘルプ

⑧ 備 考

平成 30 年 3 月 1 日

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

名 称 □□病院

電話番号 0××-×××-××××

医師氏名(自著または記名捺印) 〇× △□

精神障害者保健福祉手帳用診断書

※ 判 定	手帳	1級・ 2級 ・3級・保留・非該当
	通院医療	承認 ・条件付承認・保留・不承認

診 断 書 (精神障害者保健福祉手帳用)

氏 名	症例20	昭和 33年 3月 14日生 (59歳)	男 ・女
住 所	長崎県A市B町C番地		
① 病 名 (ICDコードは F00 ~ F99、G40 のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 <u>統合失調症</u> ICDコード (F20) (2)従たる精神障害 _____ ICDコード () (3)身体合併症 _____ 身体障害者手帳 (有・ 無)、種別 _____ 級)		
② 初診年月日	主たる精神障害の初診年月日 平成 6年 9月 1日 診断書作成医療機関の初診年月日 平成 6年 9月 1日		
③ 発病から現在までの病歴及び治療の経過 (推定発病年月、発病状況、初発症状、治療の経過、治療内容等を記載)	(推定発病時期 平成4年 11月頃) 平成4年11月頃より、幻覚妄想が出現。平成6年9月1日、当院初診。同月9日、当院入院。怠薬による再燃を繰り返し、計8回の入院歴あり。平成27年4月27日の最終退院以後、当院外来通院中。 *器質性精神障害 (認知症を除く) の場合、発症の原因となった疾患名とその発症日 (疾患名 _____、 _____ 年 月 日)		
④ 現在の病状、状態像等 (該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. 思考・運動抑制 2. 易刺激性・興奮 3. 憂うつ気分 4. その他 ()			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 ()			
③ 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 ()			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 ()			
⑤ 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 ()			
(6) 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 ()			
(7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 ()			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 () 頻度 () 最終発作 (年 月 日) 2. 意識障害 3. その他 ()			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 () ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害 [状態像を(1)~(7)、(10)の該当項目に再掲すること] エ. その他 () 現在の精神作用物質の使用 有・無 (不使用の場合、その期間 _____ 年 月 から)			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 療育手帳 (有・無、等級等) 2. 認知症 3. その他の記憶障害 () 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 () 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 ()			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 ()			
(12) その他 ()			

⑤ ④の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

幻聴、被害関係妄想が持続し、時に活発化する。感情鈍麻、意欲低下が著明で、無為な生活ぶりである。単独での外出は全くなく、自室に閉じこもっている。同居家族との会話量も極めて少ない。

〔 検査所見：検査名、検査結果、検査時期 〕

⑥ 生活能力の状態 (保護的環境でない、例えばアパートなどで単身生活を行った場合を想定して判断してください。児童では年齢相応の能力と比較の上で判断してください。)

1. 現在の生活環境

入院・自宅以外の住居／施設(名称) (自宅) (単身) (家族と同居) ・ その他

2. 日常生活能力の判定 (該当するものを○で囲んでください)

(1) 適切な食事摂取

自発的にできる ・ 自発的にできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(2) 身の清潔保持、規則正しい生活

自発的にできる ・ 自発的にできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(3) 金銭管理と買物

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(4) 通院と服薬 (要 不要)

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(5) 他人との意思伝達・対人関係

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(6) 身の安全保持・危機対応

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(7) 社会的手続きや公共施設の使用

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(8) 趣味・娯楽への関心、文化的社会的活動へ参加

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

3. 日常生活能力の程度 (該当する番号を選んで、どれか一つを○で囲んでください)

(1) 精神障害を認めるが、日常生活及び社会生活は普通にできる。

(2) 精神障害を認め、日常生活又は社会生活に一定の制限を受ける。

(3) 精神障害を認め、日常生活に著しい制限を受けており、時に応じて援助を必要とする。

(4) 精神障害を認め、日常生活に著しい制限を受けており、常時援助を必要とする。

(5) 精神障害を認め、身のまわりのことはほとんどできない。

⑦ ⑥の具体的程度、状態等

家族の強い促しのもと、食事や入浴をしているが、家事をする意欲がなく、単身生活は困難。通院の際に家族の強い促しで外出する以外、ほとんど自宅から出ることはない。通院も不定期である。近年は病院スタッフと同居家族以外との交流は全くなく、買物に出かけたこともない。テレビを見ることもない。

⑧ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

(障害者総合支援法に規定する居宅介護(ホームヘルプ)、自立訓練、共同生活援助(グループホーム)、その他の障害福祉サービス等、訪問指導、生活保護の有無等)

訪問看護

⑨ 備考

上記のとおり、診断します

平成 30 年 3 月 1 日

医療機関の名称 □□病院

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

電話番号 0xx-xxx-xxxx

診療担当科名称 〇〇〇〇

医師氏名(自署または記名捺印) ○× △□

※ 判 定	手帳	1級・2級・ 3級 ・保留・非該当
	通院医療	承認 ・条件付承認・保留・不承認

診 断 書 (精神障害者保健福祉手帳用)

氏 名	症例21	1986年 1月 26日生 (32歳)	男・ 女
住 所	長崎県A市B町C番地		
① 病 名 (ICDコードはF00～F99、G40のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 <u>統合失調症</u> ICDコード (F20) (2)従たる精神障害 _____ ICDコード () (3)身体合併症 _____ 身体障害者手帳(有・ 無)、種別 _____ 級)		
② 初診年月日	主たる精神障害の初診年月日 2005年 8月 21日 診断書作成医療機関の初診年月日 2005年 11月 30日		
③ 発病から現在までの病歴及び治療の経過 (推定発病年月、発病状況、初発症状、治療の経過、治療内容等を記載)	(推定発病時期 2005年 5月頃) 大学に進学し単身生活を始めた頃より、命令性の幻聴が出現し自室に引きこもるようになった。2005年8月21日、D病院を初診したが、間もなく中断。帰郷し、同年11月30日当院初診、同日入院。薬物療法により幻聴は消退し、1年後に復学。D病院に通院しながら卒業。その後帰郷し、2010年5月2日再び当院に通院中。 *器質性精神障害(認知症を除く)の場合、発症の原因となった疾患名とその発症日(疾患名、年 月 日)		
④ 現在の病状、状態像等 (該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. 思考・運動抑制 2. 易刺激性・興奮 3. 憂うつ気分 4. その他 ()			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 ()			
(3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 ()			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 ()			
⑤ 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 ()			
(6) 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 ()			
(7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 ()			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 () 頻度 () 最終発作 (年 月 日) 2. 意識障害 3. その他 ()			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 () ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害[状態像を(1)～(7)、(10)の該当項目に再掲すること] エ. その他 () 現在の精神作用物質の使用 有・無 (不使用の場合、その期間 年 月 から)			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 療育手帳 (有・無、等級等) 2. 認知症 3. その他の記憶障害 () 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 () 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 ()			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 ()			
(12) その他 ()			

⑤ ④の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

服薬の継続により幻聴の再燃はない。易疲労性、意欲低下を認め、活動性は低い、家族が経営する会社の手伝いをしながら生活している。

〔 検査所見：検査名、検査結果、検査時期 〕

⑥ 生活能力の状態 (保護的環境でない、例えばアパートなどで単身生活を行った場合を想定して判断してください。児童では年齢相応の能力と比較の上で判断してください。)

1. 現在の生活環境
入院・自宅以外の住居／施設(名称) (自宅) (単身) (家族と同居) ・ その他

2. 日常生活能力の判定 (該当するものを○で囲んでください)

- (1) 適切な食事摂取
自発的にできる ・ 自発的にできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない
- (2) 身の清潔保持、規則正しい生活
自発的にできる ・ 自発的にできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない
- (3) 金銭管理と買物
適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない
- (4) 通院と服薬 (要 不要)
適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない
- (5) 他人との意思伝達・対人関係
適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない
- (6) 身の安全保持・危機対応
適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない
- (7) 社会的手続きや公共施設の使用
適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない
- (8) 趣味・娯楽への関心、文化的社会的活動へ参加
適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

3. 日常生活能力の程度 (該当する番号を選んで、どれか一つを○で囲んでください)

- (1) 精神障害を認めるが、日常生活及び社会生活は普通にできる。
 (2) 精神障害を認め、日常生活又は社会生活に一定の制限を受ける。
(3) 精神障害を認め、日常生活に著しい制限を受けており、時に応じて援助を必要とする。
(4) 精神障害を認め、日常生活に著しい制限を受けており、常時援助を必要とする。
(5) 精神障害を認め、身のまわりのことはほとんどできない。

⑦ ⑥の具体的程度、状態等

身の回りのことは一通りできるが、家事などは同居の家族に依存的なところがある。慣れた作業は問題なくできるが、初めてのことに取り組むことは難しく、家族の支援を受けながら働いている。対人不安から他者とのコミュニケーションはうまくできないため、1人では外出したくない。

⑧ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

(障害者総合支援法に規定する居宅介護(ホームヘルプ)、自立訓練、共同生活援助(グループホーム)、その他の障害福祉サービス等、訪問指導、生活保護の有無等)

なし

⑨ 備考

上記のとおり、診断します

2018年 3月 1日

医療機関の名称 □□病院

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

電話番号 0xx-xxxx-xxxx

診療担当科名称 〇〇〇〇

医師氏名(自署または記名捺印) 〇× △□

※ 判 定	手帳	1級・ <u>2級</u> ・3級・保留・非該当
	通院医療	<u>承認</u> ・条件付承認・保留・不承認

診 断 書 (精神障害者保健福祉手帳用)

氏 名	症例22	昭和 40年 4月 16日生 (52歳)	男・ <u>女</u>
住 所	長崎県A市B町C番地		
① 病 名 (ICDコードはF00～F99、G40のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 <u>反復性うつ病性障害</u> ICDコード (F33) (2)従たる精神障害 _____ ICDコード () (3)身体合併症 _____身体障害者手帳 (有 <u>無</u> 、種別 _____ 級)		
② 初診年月日	主たる精神障害の初診年月日 平成 18年 6月 2日 診断書作成医療機関の初診年月日 平成 22年 5月 7日		
③ 発病から現在までの病歴及び治療の経過 (推定発病年月、発病状況、初発症状、治療の経過、治療内容等を記載)	(推定発病時期 平成18年 4月頃) 平成18年4月頃、不眠・抑うつ気分で発症し、D医院受診。複数回のうつ病エピソードを繰り返した。平成22年5月7日当院初診。平成28年と平成29年に自殺企図のためE病院に入院歴あり。同年6月2日の最終退院以降は、当院外来に通院中。 *器質性精神障害(認知症を除く)の場合、発症の原因となった疾患名とその発症日 (疾患名 _____、 _____ 年 月 日)		
④ 現在の病状、状態像等 (該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) <u>抑うつ状態</u> 1. <u>思考・運動抑制</u> 2. <u>易刺激性・興奮</u> 3. <u>憂うつ気分</u> 4. <u>その他</u> (<u>自殺企図</u>)			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 ()			
(3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 ()			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 ()			
(5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 ()			
(6) 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 ()			
(7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 ()			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 () 頻度 () 最終発作 (年 月 日) 2. 意識障害 3. その他 ()			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 () ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害[状態像を(1)～(7)、(10)の該当項目に再掲すること] エ. その他 () 現在の精神作用物質の使用 有・無 (不使用の場合、その期間 _____ 年 月 から)			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 療育手帳 (有・無、等級等) 2. 認知症 3. その他の記憶障害 () 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 () 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 ()			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 ()			
(12) その他 ()			

⑤ ④の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

過去2年間に、計3回のうつ病エピソードを繰り返している。病状悪化時には、抑うつ気分、興味・関心の喪失、自信喪失、思考抑制などの症状が顕著となり、希死念慮の強まりから自殺企図に及ぶこともあるため、今後も通院加療の継続が必要である。

検査所見：検査名、検査結果、検査時期

⑥ 生活能力の状態 (保護的環境でない、例えばアパートなどで単身生活を行った場合を想定して判断してください。児童では年齢相応の能力と比較の上で判断してください。)

1. 現在の生活環境

入院・自宅以外の住居/施設(名称) (自宅) (単身) (家族と同居) ・ その他

2. 日常生活能力の判定(該当するものを一つを○で囲んでください)

(1) 適切な食事摂取

自発的にできる ・ 自発的にできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(2) 身の清潔保持、規則正しい生活

自発的にできる ・ 自発的にできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(3) 金銭管理と買物

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(4) 通院と服薬 (要 不要)

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(5) 他人との意思伝達・対人関係

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(6) 身の安全保持・危機対応

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(7) 社会的手続きや公共施設の使用

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(8) 趣味・娯楽への関心、文化的社会的活動へ参加

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

3. 日常生活能力の程度(該当する番号を選んで、どれか一つを○で囲んでください)

(1) 精神障害を認めるが、日常生活及び社会生活は普通にできる。

(2) 精神障害を認め、日常生活又は社会生活に一定の制限を受ける。

(3) 精神障害を認め、日常生活に著しい制限を受けており、時に応じて援助を必要とする。

(4) 精神障害を認め、日常生活に著しい制限を受けており、常時援助を必要とする。

(5) 精神障害を認め、身のまわりのことはほとんどできない。

⑦ ⑥の具体的程度、状態等

現在は概ね寛解状態にあるが、身の回りのことがほとんどできなくなる数ヶ月におよぶうつ病エピソードを直近2年間に3回繰り返している。自尊心が低く、他者に自分の考えを伝えることが苦手で、相手の言いなりになってしまう。社会的手続きにも付き添いが必要である。食不振が強く、促されないと食事を摂らないままになってしまうことがある。易疲労感が強い。家事援助を受けている。

⑧ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

(障害者総合支援法に規定する居宅介護(ホームヘルプ)、自立訓練、共同生活援助(グループホーム)、その他の障害福祉サービス等、訪問指導、生活保護の有無等)

ホームヘルプ

⑨ 備考

上記のとおり、診断します

平成 30 年 3 月 1 日

医療機関の名称 □□病院

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

電話番号 0xx-xxx-xxxx

診療担当科名称 〇〇〇〇

医師氏名(自署または記名捺印) ○× △□

※ 判 定	手帳	1級・2級・ 3級 ・保留・非該当
	通院医療	承認 ・条件付承認・保留・不承認

診 断 書 (精神障害者保健福祉手帳用)

氏 名	症例23	昭和 48年 1月 4日生 (45歳)	男・ 女
住 所	長崎県A市B町C番地		
① 病 名 (ICDコードは F00 ~ F99、G40 のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 双極性感情障害 ICD コード (F31) (2)従たる精神障害 _____ ICD コード () (3)身体合併症 _____ 身体障害者手帳 (有・ 無)、種別 _____ 級)		
② 初診年月日	主たる精神障害の初診年月日 平成 20年 12月 4日 診断書作成医療機関の初診年月日 平成 25年 1月 29日		
③ 発病から現在までの病歴及び治療の経過 (推定発病年月、発病状況、初発症状、治療の経過、治療内容等を記載)	(推定発病時期 平成18年 4月頃) 平成20年10月頃より、抑うつ状態となり、D病院にて加療し軽快した。症状が再燃したため、平成25年1月29日当院初診。経過中に軽躁状態を認めたため、薬剤調整を行った。現在も当院外来通院中。 *器質性精神障害 (認知症を除く) の場合、発症の原因となった疾患名とその発症日 (疾患名 _____、 _____ 年 月 日)		
④ 現在の病状、状態像等 (該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. 思考・運動抑制 2. 易刺激性・興奮 3. 憂うつ気分 4. その他 ()			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 ()			
(3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 ()			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 ()			
(5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 ()			
(6) 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 ()			
(7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 ()			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 () 頻度 () 最終発作 (年 月 日) 2. 意識障害 3. その他 ()			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 () ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害 [状態像を(1)~(7)、(10)の該当項目に再掲すること] エ. その他 () 現在の精神作用物質の使用 有・無 (不使用の場合、その期間 _____ 年 月 から)			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 療育手帳 (有・無、等級等) 2. 認知症 3. その他の記憶障害 () 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 () 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 ()			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 ()			
(12) その他 ()			

⑤ ④の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

数年来、軽度の抑うつ状態が遷延し、不安全感からいらいらしやすい状態にあるが、家族の支援を受けながら何とか家事をこなしている。初回エピソード時には強い精神運動抑制と希死念慮を認めた。軽躁状態では爽快気分から活動性の亢進、浪費が見られた。

検査所見：検査名、検査結果、検査時期

⑥ 生活能力の状態 (保護的環境でない、例えばアパートなどで単身生活を行った場合を想定して判断してください。児童では年齢相応の能力と比較の上で判断してください。)

1. 現在の生活環境

入院・自宅以外の住居／施設(名称) (自宅) (単身) (家族と同居) ・ その他

2. 日常生活能力の判定 (該当するものを○で囲んでください)

(1) 適切な食事摂取

自発的にできる ・ 自発的にできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(2) 身の清潔保持、規則正しい生活

自発的にできる ・ 自発的にできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(3) 金銭管理と買物

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(4) 通院と服薬 (要 不要)

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(5) 他人との意思伝達・対人関係

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(6) 身の安全保持・危機対応

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(7) 社会的手続きや公共施設の使用

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(8) 趣味・娯楽への関心、文化的社会的活動へ参加

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

3. 日常生活能力の程度 (該当する番号を選んで、どれか一つを○で囲んでください)

(1) 精神障害を認めるが、日常生活及び社会生活は普通にできる。

(2) 精神障害を認め、日常生活又は社会生活に一定の制限を受ける。

(3) 精神障害を認め、日常生活に著しい制限を受けており、時に応じて援助を必要とする。

(4) 精神障害を認め、日常生活に著しい制限を受けており、常時援助を必要とする。

(5) 精神障害を認め、身のまわりのことはほとんどできない。

⑦ ⑥の具体的程度、状態等

身の回りのことは概ね可能であるが、家事は最低限のことをこなすのみである。調子の良い時にパートに出たこともあったが長続きしなかった。病状悪化時には不安が強まり、通院を含む外出に家族の同伴を必要とする。近年は軽躁病エピソードは見られていないが、その際には浪費が目立つため、金銭管理においても支援が必要となる。

⑧ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

(障害者総合支援法に規定する居宅介護(ホームヘルプ)、自立訓練、共同生活援助(グループホーム)、その他の障害福祉サービス等、訪問指導、生活保護の有無等)

なし

⑨ 備考

上記のとおり、診断します

平成 30 年 3 月 1 日

医療機関の名称 □□病院

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

電話番号 0××-×××-××××

診療担当科名称 〇〇〇〇

医師氏名(自著または記名捺印) ○× △□

※ 判 定	手帳	1級・2級・ 3級 ・保留・非該当
	通院医療	承認 ・ 条件付承認 ・ 保留 ・ 不承認

診 断 書 (精神障害者保健福祉手帳用)

氏 名	症例24	1992年10月29日生(25歳)	男 ・女
住 所	長崎県A市B町C番地		
① 病 名 (ICDコードはF00～F99、G40のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 <u>広汎性発達障害</u> ICDコード (F84) (2)従たる精神障害 _____ ICDコード () (3)身体合併症 _____ 身体障害者手帳 (有・ 無)、種別 _____ 級)		
② 初診年月日	主たる精神障害の初診年月日 2009年5月1日 診断書作成医療機関の初診年月日 2009年5月17日		
③ 発病から現在までの病歴及び治療の経過 (推定発病年月、発病状況、初発症状、治療の経過、治療内容等を記載)	(推定発病時期 生来 年 月頃) 幼少時より一人遊びが好きで集団になじめなかった。小学4年から不登校傾向が見られ、私立高校に進学したが3ヶ月で中退。ひきこもりや家人への暴力を主訴に2009年5月1日に近医小児科を受診。同月17日に当院を紹介初診となった。 *器質性精神障害(認知症を除く)の場合、発症の原因となった疾患名とその発症日 (疾患名、 年 月 日)		
④ 現在の病状、状態像等 (該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. 思考・運動抑制 2. 易刺激性・興奮 3. 憂うつ気分 4. その他 ()			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 ()			
(3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 ()			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 ()			
(5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 ()			
(6) 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 ()			
(7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 ()			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 () 頻度 () 最終発作 (年 月 日) 2. 意識障害 3. その他 ()			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 () ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害[状態像を(1)～(7)、(10)の該当項目に再掲すること] エ. その他 () 現在の精神作用物質の使用 有・無 (不使用の場合、その期間 年 月 から)			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 療育手帳 (有・無、等級等) 2. 認知症 3. その他の記憶障害 () 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 () 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 ()			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 ()			
(12) その他 ()			

⑤ ④の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

視線は合いにくく、興味のある漫画の話になると制止するまで話し続ける。幼少時から集団行動が難しく、小中学校では対人トラブルがしばしば見られた。高校に進学したが、同級生となじめず登校しようとする不安発作を起こすようになり中退。本屋やゲーム店などに買物には行く以外は自宅に閉居している。いつも同じ服を着ており、家人が勝手に洗濯すると激怒し、暴力的になる。

検査所見：検査名、検査結果、検査時期

⑥ 生活能力の状態 (保護的環境でない、例えばアパートなどで単身生活を行った場合を想定して判断してください。児童では年齢相応の能力と比較の上で判断してください。)

1. 現在の生活環境 入院・自宅以外の住居／施設(名称) (自宅) (単身) (家族と同居) ・ その他

2. 日常生活能力の判定 (該当するもの一つを○で囲んでください)

- (1) 適切な食事摂取
自発的にできる ・ 自発的にできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない
- (2) 身の清潔保持、規則正しい生活
自発的にできる ・ 自発的にできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない
- (3) 金銭管理と買物
適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない
- (4) 通院と服薬 (要 不要)
適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない
- (5) 他人との意思伝達・対人関係
適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない
- (6) 身の安全保持・危機対応
適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない
- (7) 社会的手続きや公共施設の使用
適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない
- (8) 趣味・娯楽への関心、文化的社会的活動へ参加
適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

3. 日常生活能力の程度 (該当する番号を選んで、どれか一つを○で囲んでください)

- (1) 精神障害を認めるが、日常生活及び社会生活は普通にできる。
(2) 精神障害を認め、日常生活又は社会生活に一定の制限を受ける。
 (3) 精神障害を認め、日常生活に著しい制限を受けており、時に応じて援助を必要とする。
(4) 精神障害を認め、日常生活に著しい制限を受けており、常時援助を必要とする。
(5) 精神障害を認め、身のまわりのことはほとんどできない。

⑦ ⑥の具体的程度、状態等

衣食住に関する生活障害は軽微であるが、公共施設や社会的場面においては、他人との会話や交渉がスムーズにできず結果として、社会的活動への参加に著しい制限を受けている。興味や関心が極端に局限されており過度に熱中してしまうため、周囲の状況把握ができず怪我をしたり、食事や入浴をしなかったりすることもある。

⑧ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

(障害者総合支援法に規定する居宅介護(ホームヘルプ)、自立訓練、共同生活援助(グループホーム)、その他の障害福祉サービス等、訪問指導、生活保護の有無等)

なし

⑨ 備考

上記のとおり、診断します

2018年 3月 1日

医療機関の名称 □□病院

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

電話番号 0xx-xxx-xxxx

診療担当科名称 〇〇〇〇

医師氏名(自著または記名捺印) ○× △□

※ 判 定	手帳	1級・ <u>2級</u> ・3級・保留・非該当
	通院医療	<u>承認</u> ・条件付承認・保留・不承認

診 断 書 (精神障害者保健福祉手帳用)

氏 名	症例25	昭和 59年 9月 27日生 (33歳)	<u>男</u> ・女
住 所	長崎県A市B町C番地		
① 病 名 (ICDコードはF00～F99、G40のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 <u>器質性パニック障害(高次脳機能障害)</u> ICDコード (F07) (2)従たる精神障害 <u>器質性健忘症候群(")</u> ICDコード (F04) (3)身体合併症 <u>左半身麻痺</u> 身体障害者手帳 (<u>有</u> ・無、種別 2種4級)		
② 初診年月日	主たる精神障害の初診年月日 平成 26年 7月 27日 診断書作成医療機関の初診年月日 平成 27年 1月 22日		
③ 発病から現在までの病歴及び治療の経過 (推定発病年月、発病状況、初発症状、治療の経過、治療内容等を記載)	(推定発病時期 平成 26年 7月頃) 平成26年6月、バイク事故にて脳挫傷を負いD病院で緊急手術を受ける。リハビリ目的に同年7月7日、E病院に転院。その後、神経心理学的検査等を受け、上記と診断された。同年11月、自宅復帰したが、記憶力障害、集中力低下、情動不安定、家族への暴言が持続したため、平成27年1月22日、当院初診となり、以後現在まで通院中。 *器質性精神障害(認知症を除く)の場合、発症の原因となった疾患名とその発症日 (疾患名 脳挫傷 平成26年 6月 9日)		
④ 現在の病状、状態像等 (該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. 思考・運動抑制 2. 易刺激性・興奮 3. 憂うつ気分 4. その他 ()			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 ()			
(3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 ()			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 ()			
(5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 ()			
(6) 情動及び行動の障害 1. <u>爆発性</u> 2. <u>暴力・衝動行為</u> 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. <u>その他</u> (性的逸脱行為)			
(7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 ()			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 () 頻度 () 最終発作 (年 月 日) 2. 意識障害 3. その他 ()			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 () ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害[状態像を(1)～(7)、(10)の該当項目に再掲すること] エ. その他 () 現在の精神作用物質の使用 有・無 (不使用の場合、その期間 年 月 から)			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. <u>軽度</u> イ. 中度 ウ. 重度 療育手帳 (有・無、等級等) 2. 認知症 3. <u>その他の記憶障害</u> (短期記憶障害) 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 () 5. <u>遂行機能障害</u> 6. 注意障害 7. その他 ()			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 ()			
(12) その他 ()			

⑤ ④の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

思考、動作ともに緩慢で時間観念も乏しい。記憶力障害のために何度も同じ間違いを続けてしまう。動作になかなかとりかかれず、着替えに1時間かかることもある。作業を順序よく遂行することも困難で、思い通りにならないと暴言を吐いたり物に当たったりする。若い女性にしつこく言い寄ったり、卑猥な言動をしたりなど性的逸脱行動も見られる。

検査所見：検査名、検査結果、検査時期

頭部MRI(平成29年6月28日実施)：両前頭葉内側部に脳挫傷痕 WAIS-Ⅲ(平成27年3月11日実施)：IQ=79

⑥ 生活能力の状態 (保護的環境でない、例えばアパートなどで単身生活を行った場合を想定して

判断してください。児童では年齢相応の能力と比較の上で判断してください。)

1. 現在の生活環境

入院 自宅以外の住居/施設 (名称 **グループホームF**)・自宅 (ア単身 イ家族と同居)・その他

2. 日常生活能力の判定 (該当するもの一つを○で囲んでください)

(1) 適切な食事摂取

自発的にできる ・ 自発的にできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(2) 身の清潔保持、規則正しい生活

自発的にできる ・ 自発的にできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(3) 金銭管理と買物

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(4) 通院と服薬 (要 不要)

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(5) 他人との意思伝達・対人関係

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(6) 身の安全保持・危機対応

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(7) 社会的手続きや公共施設の使用

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(8) 趣味・娯楽への関心、文化的社会的活動へ参加

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

3. 日常生活能力の程度 (該当する番号を選んで、どれか一つを○で囲んでください)

(1) 精神障害を認めるが、日常生活及び社会生活は普通にできる。

(2) 精神障害を認め、日常生活又は社会生活に一定の制限を受ける。

(3) 精神障害を認め、日常生活に著しい制限を受けており、時に応じて援助を必要とする。

(4) 精神障害を認め、日常生活に著しい制限を受けており、常時援助を必要とする。

(5) 精神障害を認め、身のまわりのことはほとんどできない。

⑦ ⑥の具体的程度、状態等

あらゆる活動場面において作業効率が悪く、手順を覚えられないため、常に他者の援助を必要としている。金銭管理ができず、浪費してしまう。病識に乏しく、内服の必要性を理解しておらず、服薬が不規則になりやすい。情動不安定で思い通りにいかないとすぐに怒り出すため、対人トラブルが多く、社会的場面においても支援者の付き添いが必要となる

⑧ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

(障害者総合支援法に規定する居宅介護(ホームヘルプ)、自立訓練、共同生活援助(グループホーム)、その他の障害福祉サービス等、訪問指導、生活保護の有無等)

グループホーム入所 自立訓練(生活訓練)サービス事業所への通所

⑨ 備考

上記のとおり、診断します

平成 30 年 3 月 1 日

医療機関の名称 □□病院

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

電話番号 0××-×××-××××

診療担当科名称 〇〇〇〇

医師氏名(自著または記名捺印) ○× △□

※判定	手帳	1級・2級・ 3級 ・保留・非該当
	通院医療	承認 ・条件付承認・保留・不承認

診 断 書 (精神障害者保健福祉手帳用)

氏 名	症例27	1986年1月26日生(32歳)	男 ・女
住 所	長崎県A市B町C番地		
① 病 名 (ICDコードはF00～F99、G40のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 <u>てんかん</u> ICDコード (G40)	(2)従たる精神障害 _____ ICDコード ()	(3)身体合併症 _____ 身体障害者手帳 (有・ 無 、種別 _____ 級)
② 初診年月日	主たる精神障害の初診年月日 2002年8月3日 診断書作成医療機関の初診年月日 2013年4月5日		
③ 発病から現在までの病歴及び治療の経過 (推定発病年月、発病状況、初発症状、治療の経過、治療内容等を記載)	(推定発病時期 平成19年12月頃) 高校1年時、意識消失発作が出現。以後、何度か同様の発作を繰り返した。2002年8月より近医にて投薬開始。徐々に発作回数は減ったが、現在も完全に抑制できていない。2013年4月5日当院初診。以後、通院継続中。 *器質性精神障害(認知症を除く)の場合、発症の原因となった疾患名とその発症日(疾患名、年 月 日)		
④ 現在の病状、状態像等(該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. 思考・運動抑制 2. 易刺激性・興奮 3. 憂うつ気分 4. その他 ()			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 ()			
(3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 ()			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 ()			
(5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 ()			
(6) 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 ()			
(7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 ()			
(8) てんかん発作等(けいれん及び意識障害) ① てんかん発作 発作型(複雑部分発作) 頻度(3ヶ月に1回) 最終発作(平成29年12月8日) 2. 意識障害 3. その他 ()			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 () ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害[状態像を(1)～(7)、(10)の該当項目に再掲すること] エ. その他 () 現在の精神作用物質の使用 有・無 (不使用の場合、その期間 年 月 から)			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 療育手帳(有・無、等級等) 2. 認知症 3. その他の記憶障害 () 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 () 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 ()			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 ()			
(12) その他 ()			

⑤ ④の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

意識消失と動作の停止のみで、転倒や自動症を伴わない複雑部分発作が3ヶ月に1回程度

検査所見：検査名、検査結果、検査時期
脳波（平成30年1月23日実施）：左内側側頭葉に棘波

⑥ 生活能力の状態（保護的環境でない、例えばアパートなどで単身生活を行った場合を想定して判断してください。児童では年齢相応の能力と比較の上で判断してください。）

1. 現在の生活環境

入院・自宅以外の住居／施設（名称）（自宅）（ア単身 イ家族と同居）・その他

2. 日常生活能力の判定（該当するものを○で囲んでください）

(1) 適切な食事摂取

自発的にできる・自発的にできるが援助が必要・援助があればできる・できない

(2) 身の清潔保持、規則正しい生活

自発的にできる・自発的にできるが援助が必要・援助があればできる・できない

(3) 金銭管理と買物

適切にできる・おおむねできるが援助が必要・援助があればできる・できない

(4) 通院と服薬（要 不要）

適切にできる・おおむねできるが援助が必要・援助があればできる・できない

(5) 他人との意思伝達・対人関係

適切にできる・おおむねできるが援助が必要・援助があればできる・できない

(6) 身の安全保持・危機対応

適切にできる・おおむねできるが援助が必要・援助があればできる・できない

(7) 社会的手続きや公共施設の使用

適切にできる・おおむねできるが援助が必要・援助があればできる・できない

(8) 趣味・娯楽への関心、文化的社会的活動へ参加

適切にできる・おおむねできるが援助が必要・援助があればできる・できない

3. 日常生活能力の程度（該当する番号を選んで、どれか一つを○で囲んでください）

(1) 精神障害を認めるが、日常生活及び社会生活は普通にできる。

(2) 精神障害を認め、日常生活又は社会生活に一定の制限を受ける。

(3) 精神障害を認め、日常生活に著しい制限を受けており、時に応じて援助を必要とする。

(4) 精神障害を認め、日常生活に著しい制限を受けており、常時援助を必要とする。

(5) 精神障害を認め、身のまわりのことはほとんどできない。

⑦ ⑥の具体的程度、状態等

発作があることを除けば、日常生活は問題なく送ることができ、就労もしている。服薬も遵守している。しかし発作時は安全確保の面で支援を要するため、運転や高所作業など危険を伴うことはできない。

⑧ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

（障害者総合支援法に規定する居宅介護（ホームヘルプ）、自立訓練、共同生活援助（グループホーム）、その他の障害福祉サービス等、訪問指導、生活保護の有無等）

なし

⑨ 備考

上記のとおり、診断します

平成 30 年 3 月 1 日

医療機関の名称 □□病院

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

電話番号 〇××-×××-××××

診療担当科名称 〇〇〇〇

医師氏名（自著または記名捺印） 〇× △□

(別紙様式第2号)

※2年以上てんかん発作抑制中であり、生活障害は精神遅滞によるものと判断されるため

※判定

手帳

1級・2級・3級・保留・非該当

通院医療

承認・条件付承認・保留・不承認

診断書 (精神障害者保健福祉手帳用)

氏名	症例27	1996年5月26日生(21歳)	男・ <input checked="" type="radio"/> 女
住所	長崎県A市B町C番地		
手帳非該当例 名 (ICDコードはF00～F99、G40のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 <u>てんかん</u> ICDコード (G40) (2)従たる精神障害 <u>重度精神遅滞</u> ICDコード (F72) (3)身体合併症 _____ 身体障害者手帳 (有・ <input checked="" type="radio"/> 無、種別 _____ 級)		
② 初診年月日	主たる精神障害の初診年月日 2006年1月30日 診断書作成医療機関の初診年月日 2016年7月16日		
③ 発病から現在までの病歴及び治療の経過 (推定発病年月、発病状況、初発症状、治療の経過、治療内容等を記載)	(推定発病時期 2005年11月頃) 低体重にて出生し、その後心身とも発育が遅延する。9歳より全身けいれん発作が出現。2006年1月30日、D小児科初診し、薬物療法開始。2016年7月16日より当院通院中。 *器質性精神障害(認知症を除く)の場合、発症の原因となった疾患名とその発症日(疾患名 _____、 _____ 年 月 日)		
④ 現在の病状、状態像等(該当する項目を○で囲んで下さい。)	(1) 抑うつ状態 1. 思考・運動抑制 2. 易刺激性・興奮 3. 憂うつ気分 4. その他 () (2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 () (3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 () (4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 () (5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 () (6) 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 () (7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 () (8) てんかん発作等(けいれん及び意識障害) ① てんかん発作 発作型(複雑部分発作二次性全般化) 頻度 () 最終発作(2015年9月29日) ② 意識障害 3. その他 () (9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 () ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害[状態像を(1)～(7)、(10)の該当項目に再掲すること] エ. その他 () 現在の精神作用物質の使用 有・無 (不使用の場合、その期間 _____ 年 月 から) (10) 知能・記憶・学習等の障害 ① 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 <input checked="" type="radio"/> 重度 療育手帳 (<input checked="" type="radio"/> 有・無、等級等 A 2) 2. 認知症 3. その他の記憶障害 () 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 () 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 () (11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 () (12) その他 ()		

⑤ ④の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

自動症を伴う複雑部分発作で二次性全般化を伴う。2015年9月29日が最終発作。以後、発作は抑制中。
IQ = 25の重度精神遅滞

検査所見：検査名、検査結果、検査時期

⑥ 生活能力の状態 (保護的環境でない、例えばアパートなどで単身生活を行った場合を想定して判断してください。児童では年齢相応の能力と比較の上で判断してください。)

1. 現在の生活環境

入院 自宅以外の住居/施設 (名称 **E学園**) ・ 自宅 (ア単身 イ家族と同居) ・ その他

2. 日常生活能力の判定 (該当するものを○で囲んでください)

(1) 適切な食事摂取

自発的にできる ・ 自発的にできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(2) 身の清潔保持、規則正しい生活

自発的にできる ・ 自発的にできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(3) 金銭管理と買物

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(4) 通院と服薬 (要 不要)

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(5) 他人との意思伝達・対人関係

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(6) 身の安全保持・危機対応

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(7) 社会的手続きや公共施設の使用

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(8) 趣味・娯楽への関心、文化的社会的活動へ参加

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

3. 日常生活能力の程度 (該当する番号を選んで、どれか一つを○で囲んでください)

(1) 精神障害を認めるが、日常生活及び社会生活は普通にできる。

(2) 精神障害を認め、日常生活又は社会生活に一定の制限を受ける。

(3) 精神障害を認め、日常生活に著しい制限を受けており、時に応じて援助を必要とする。

(4) 精神障害を認め、日常生活に著しい制限を受けており、常時援助を必要とする。

(5) 精神障害を認め、身のまわりのことはほとんどできない。

⑦ ⑥の具体的程度、状態等

重度の精神遅滞で限られた数の有意語を発するのみ。家族と特定の支援者以外の他人との意思疎通はほとんど出来ず、単独外出も困難である。食事、整容、服薬の管理を含む日常生活全般にわたって全面的な介助を必要としている。

⑧ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

(障害者総合支援法に規定する居宅介護(ホームヘルプ)、自立訓練、共同生活援助(グループホーム)、その他の障害福祉サービス等、訪問指導、生活保護の有無等)

共同生活介護

⑨ 備考

上記のとおり、診断します

2018年 3月 1日

医療機関の名称 □□病院

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

電話番号 0xx-xxx-xxxx

診療担当科名称 〇〇〇〇

医師氏名(自著または記名捺印) ○× △□

(別紙様式第2号)

※精神症状の記載が乏しく、生活障害が身体機能の低下によるように読取れるため

※判定	手帳	1級・2級・3級・ 保留 ・非該当
	通院医療	承認・条件付承認・ 保留 ・不承認

診断書 (精神障害者保健福祉手帳用)

氏名	症例28	昭和14年6月30日生(78歳)	男・ 女
住所	長崎県A市B町C番地		
記載不十分例 氏名 (ICDコードはF00～F99、G40のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 <u>うつ病</u> ICDコード (F32) (2)従たる精神障害 _____ ICDコード () (3)身体合併症 <u>大腿骨頸部骨折後</u> 身体障害者手帳 (有・ 無 、種別 _____ 級)		
② 初診年月日	主たる精神障害の初診年月日 平成16年6月21日 診断書作成医療機関の初診年月日 平成19年8月10日		
③ 発病から現在までの病歴及び治療の経過 (推定発病年月、発病状況、初発症状、治療の経過、治療内容等を記載)	(推定発病時期 平成16年3月頃) 末娘の独立を機に不眠、不安、抑うつ気分、意欲低下などが出現し、近医で投薬を受けていた。平成19年8月10日、当院初診。症状には波があったが、自宅で単身生活を続けていた。平成27年11月、骨折のためADLが低下し、施設に入所。以後現在まで通院中。 ※器質性精神障害(認知症を除く)の場合、発症の原因となった疾患名とその発症日 (疾患名 _____、年 月 日)		
④ 現在の病状、状態像等 (該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. 思考・運動抑制 2. 易刺激性・興奮 3. 憂うつ気分 4. その他 ()			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 ()			
(3) 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 ()			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 ()			
(5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 ()			
(6) 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 ()			
(7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 ()			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 () 頻度 () 最終発作 (年 月 日) 2. 意識障害 3. その他 ()			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 () ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害[状態像を(1)～(7)、(10)の該当項目に再掲すること] エ. その他 () 現在の精神作用物質の使用 有・無 (不使用の場合、その期間 年 月 から)			
(10) 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 療育手帳 (有・無、等級等) 2. 認知症 3. その他の記憶障害 () 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 () 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 ()			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 ()			
(12) その他 ()			

⑤ ④の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

施設内のレクリエーションには参加できている。歩行はごく短距離に限られ、援助がなければ外出できず、家族の面会も少ないため、趣味のサークルにも参加できなくなった。軽度の抑うつ気分や寂しさの訴えが聞かれる。認知機能は概ね維持されている。

検査所見：検査名、検査結果、検査時期

MMSE（平成29年8月31日実施）：28/30点

⑥ 生活能力の状態

（保護的環境でない、例えばアパートなどで単身生活を行った場合を想定して判断してください。児童では年齢相応の能力と比較の上で判断してください。）

1. 現在の生活環境

入院 自宅以外の住居/施設 (名称 老人ホームD) ・ 自宅 (ア単身 イ家族と同居) ・ その他

2. 日常生活能力の判定（該当するものを○で囲んでください）

(1) 適切な食事摂取

自発的にできる ・ 自発的にできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(2) 身の清潔保持、規則正しい生活

自発的にできる ・ 自発的にできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(3) 金銭管理と買物

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(4) 通院と服薬（ 要 不要 ）

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(5) 他人との意思伝達・対人関係

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(6) 身の安全保持・危機対応

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(7) 社会的手続きや公共施設の使用

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(8) 趣味・娯楽への関心、文化的社会的活動へ参加

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

3. 日常生活能力の程度（該当する番号を選んで、どれか一つを○で囲んでください）

(1) 精神障害を認めるが、日常生活及び社会生活は普通にできる。

(2) 精神障害を認め、日常生活又は社会生活に一定の制限を受ける。

(3) 精神障害を認め、日常生活に著しい制限を受けており、時に応じて援助を必要とする。

(4) 精神障害を認め、日常生活に著しい制限を受けており、常時援助を必要とする。

(5) 精神障害を認め、身のまわりのことはほとんどできない。

⑦ ⑥の具体的程度、状態等

移動に制限があるため、通院、買物、社会的活動への参加における制限が大きい。入浴時にも介助を要する。自ら支援を求めることが苦手であり、施設入所当初は不安が強く、様々な場面で配慮を要した。

⑧ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

（障害者総合支援法に規定する居宅介護（ホームヘルプ）、自立訓練、共同生活援助（グループホーム）、その他の障害福祉サービス等、訪問指導、生活保護の有無等）

共同生活介護

⑨ 備考

上記のとおり、診断します

平成 30 年 3 月 1 日

医療機関の名称 □□病院

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

電話番号 〇××-×××-××××

診療担当科名称 〇〇〇〇

医師氏名（自著または記名捺印） 〇× △□

(別紙様式第2号)

※ 認知症の症状経過や診断根拠が不明であるため

※ 判 定	手帳	1級・2級・3級・ 保留 ・非該当
	通院医療	承認・条件付承認・保留・不承認

診 断 書 (精神障害者保健福祉手帳用)

氏 名	症例29	昭和16年3月28日生(76歳)	男・ 女
住 所	長崎県A市B町C番地		
記載不十分例 病 名 (ICDコードはF00～F99、G40のいずれかを記載)	(1)主たる精神障害 レヴィー小体型認知症 ICDコード (F02) (2)従たる精神障害 _____ ICDコード () (3)身体合併症 <u>高血圧症</u> 身体障害者手帳 (有・ 無)、種別 _____ 級)		
② 初診年月日	主たる精神障害の初診年月日 平成24年 頃月 日 診断書作成医療機関の初診年月日 平成28年 10月 2日		
③ 発病から現在までの病歴及び治療の経過 (推定発病年月、発病状況、初発症状、治療の経過、治療内容等を記載)	(推定発病時期 平成20年 月頃) 70歳頃から徐々にもの忘れが進行し、かかりつけ医で認知症が疑われていた。また、誰もいないのに「息子が来た」と言うことがあった。施設入所に伴い、平成28年10月2日に当院に転医。 *器質性精神障害(認知症を除く)の場合、発症の原因となった疾患名とその発症日 (疾患名 _____、 _____ 年 月 日)		
④ 現在の病状、状態像等 (該当する項目を○で囲んで下さい。)			
(1) 抑うつ状態 1. 思考・運動抑制 2. 易刺激性・興奮 3. 憂うつ気分 4. その他 ()			
(2) 躁状態 1. 行為心迫 2. 多弁 3. 感情高揚・易刺激性 4. その他 ()			
③ 幻覚妄想状態 1. 幻覚 2. 妄想 3. その他 ()			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1. 興奮 2. 昏迷 3. 拒絶 4. その他 ()			
(5) 統合失調症等残遺状態 1. 自閉 2. 感情平板化 3. 意欲の減退 4. その他 ()			
(6) 情動及び行動の障害 1. 爆発性 2. 暴力・衝動行為 3. 多動 4. 食行動の異常 5. チック・汚言 6. その他 ()			
(7) 不安及び不穏 1. 強度の不安・恐怖感 2. 強迫体験 3. 心的外傷に関連する症状 4. 解離・転換症状 5. その他 ()			
(8) てんかん発作等 (けいれん及び意識障害) 1. てんかん発作 発作型 () 頻度 () 最終発作 (年 月 日) 2. 意識障害 3. その他 ()			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存 1. アルコール 2. 覚せい剤 3. 有機溶剤 4. その他 () ア. 乱用 イ. 依存 ウ. 残遺性・遅発性精神障害[状態像を(1)～(7)、(10)の該当項目に再掲すること] エ. その他 () 現在の精神作用物質の使用 有・無 (不使用の場合、その期間 _____ 年 月 から)			
⑩ 知能・記憶・学習等の障害 1. 知的障害(精神遅滞) ア. 軽度 イ. 中度 ウ. 重度 療育手帳 (有・無、等級等 _____) ② 認知症 3. その他の記憶障害 () 4. 学習の困難 ア. 読み イ. 書き ウ. 算数 エ. その他 () 5. 遂行機能障害 6. 注意障害 7. その他 ()			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1. 相互的な社会関係の質的障害 2. コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3. 限定した常同的で反復的な関心と活動 4. その他 ()			
(12) その他 ()			

⑤ ④の病状・状態像等の、具体的程度、症状、検査所見等

曜日や時間の感覚があいまいで、夜中に部屋を出てくることがあり、転倒の恐れがある。
いない人が来ていたと話すなど、幻視を示唆する発言が聞かれることがあった。

〔 検査所見：検査名、検査結果、検査時期 〕

⑥ 生活能力の状態 (保護的環境でない、例えばアパートなどで単身生活を行った場合を想定して判断してください。児童では年齢相応の能力と比較の上で判断してください。)

1. 現在の生活環境

入院 自宅以外の住居/施設 (名称 老人ホームD)・自宅 (ア単身 イ家族と同居)・その他

2. 日常生活能力の判定 (該当するものを○で囲んでください)

(1) 適切な食事摂取

自発的にできる ・ 自発的にできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(2) 身の清潔保持、規則正しい生活

自発的にできる ・ 自発的にできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(3) 金銭管理と買物

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(4) 通院と服薬 (要 不要)

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(5) 他人との意思伝達・対人関係

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(6) 身の安全保持・危機対応

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(7) 社会的手続きや公共施設の使用

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(8) 趣味・娯楽への関心、文化的社会的活動へ参加

適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

3. 日常生活能力の程度 (該当する番号を選んで、どれか一つを○で囲んでください)

(1) 精神障害を認めるが、日常生活及び社会生活は普通にできる。

(2) 精神障害を認め、日常生活又は社会生活に一定の制限を受ける。

(3) 精神障害を認め、日常生活に著しい制限を受けており、時に応じて援助を必要とする。

(4) 精神障害を認め、日常生活に著しい制限を受けており、常時援助を必要とする。

(5) 精神障害を認め、身のまわりのことはほとんどできない。

⑦ ⑥の具体的程度、状態等

服薬は忘れてしまうため、声かけが必要である。食事・整容など身の回りのことにも見守りや適宜の支援が必要である。

⑧ 現在の障害福祉サービス等の利用状況

(障害者総合支援法に規定する居宅介護 (ホームヘルプ)、自立訓練、共同生活援助 (グループホーム)、その他の障害福祉サービス等、訪問指導、生活保護の有無等)

有料老人ホーム入所中

⑨ 備考

上記のとおり、診断します

平成 30 年 3 月 1 日

医療機関の名称 □□病院

医療機関所在地 〇〇県△△市・・・

電話番号 〇××-×××-××××

診療担当科名称 〇〇〇〇

医師氏名 (自著または記名捺印) 〇× △□

